

言語障害

(5) 情報機器等の活用

① 構音指導や吃音等、話し言葉の流暢性にかかわる指導

構音や吃音等への指導においては、音声を記録することが大切です。毎回の指導において、子供と共に録音・再生することで構音や吃音等の状態を確認したり、改善への意欲を高めたりすることができます。また、継続的に記録することで指導の効果を確認することも可能となります。子供や保護者と共に振り返ることで構音障害や吃音の改善状況を確認合うこともできます。音声を記録する装置としては IC レコーダやタブレット PC 等があります。

さらに、ビデオカメラやタブレット PC の録画機能を使用することにより、口唇や舌の動き等の構音動作や発声時の随伴動作等が記録・視聴でき、指導への効果が一層期待できます。

国立特別支援教育総合研究所の Web サイトの中に、構音指導について動画等を用いて解説しているサイトがあります（『ネットで学ぶ発音教室』<http://forum.nise.go.jp/kotoba/htdocs/>）。子供本人や保護者と共に視聴することで、指導を効果的に進めることができます。

② 言語機能の基礎的事項を拡充する指導

語彙や構文力の拡充を目指す指導では、写真など、視覚に訴える素材を用いると興味が持続し効果的です。例えば、子供がデジタルカメラで好きな人や物を撮影した後、指導者と共に写真を見ながら会話するというかかわりは、語彙や構文力の拡充や定着に有効です。同時に子供の興味・関心の対象を知ることができます。

さらに、その写真をパソコンに取り込み、プリンタで印制して絵カードにしたり、加工して印刷し絵日記のようにすると毎回の指導で繰り返し使用することができます。

③ 言語理解を促進する指導

話し言葉の理解を促進したり定着したりする目的で、言語障害特別支援学級や通級指導教室では、工作や調理実習等を行うことがあります。こうした活動の際、使用する素材や道具をデジタルカメラで撮影したり、操作の様子などをビデオカメラで撮影したりして、それらを手順に沿ってプロジェクタやモニターで表示しながら説明すると、子供たちに理解しやすく、言葉の意味理解の定着に有効です。また、通常の学級においてことばの教室での学習を説明する際にも活用できます。

④ 集団での発表に自信をもつための指導

言語障害のある子供の中には、構音や吃音や語彙の少なさといったことを意識し過ぎて、集団を前にしての発表に自信がもてない子供がいます。こうした子供が自信をもって発表できるためには視覚的な発表素材を活用することが有効です。

紙芝居にまとめたり実物を提示しながら発表したりする方法もありますが、パソコンとプレゼンテーションソフトを活用して、発表したい内容を整理していくと記録もしやすく、また発表準備も簡便にできます。プレゼンテーションソフトでまとめる際には、デジタルカメラに加えてイメージスキャナがあると、手書きの原稿や様々な資料を鮮明にパソコンに取り込むことができます。

上記のいずれの指導においても、子供の記録に関しては事前に本人及び保護者の了解を得ておくことが重要です。また、パソコンや記録メディア等の管理に十分留意する必要があります。